

海燕社

の小さな

映画会 2024

5/19 (日) 14:00~

沖縄県立博物館 美術館 講堂(3F)

受付13:15 開場13:30 料金 1,200円(予約制) 当日1,500円
予約(海燕社) ☎ 098-850-8485 / ✉ mail@kaiensha.jp

九州・沖縄から

文化力

POWER OF CULTURE
後援：沖縄県 那覇市

※小中高校生は先着10名まで無料

アンコール上映

奥会津の木地師

-福島県田島町針生-

民族文化映像研究所 / 1976年 / 55分

文部省特選 / 日本映画ペンクラブ推薦 /
1976年キネマ旬報文化映画ベストテン3位



日本列島には、近年まで移動性の生活をする人々が活躍していた。山から山へ移動して椀などの木地物を作る木地師もそのなかにあった。これは、昭和初期まで福島県南部の山間地で盛んに移動性の活動をしていた木地師の家族による当時の生活と技術の再現記録である。ブナを中心とした落葉広葉樹林帯。小椋藤八さんたちは、ブナを材料とした椀を作っていた。まず木地屋敷を作る。屋根も壁も笹で葺く、掘立て造りである。家の中には、囲

炉裏のある座敷とフイゴやロクロ台などを置く広い土間がある。屋敷ができあがると山の神を祀り、フイゴまつりをする。山の神まつりで藤八さんが唱えた唱え言は、古代のタマフリではないかとみる人もある。谷から水も引いてきた。椀作りが始まる。男たちは山へ入りブナを倒し、伐り株に笹を立てて神に祈る。そしてその場で椀の荒型を作る。倒したブナに切り込みを入れて山型を作り、マガリヨキでそれをはつり起こしていく。女たちが荒型を屋

敷に運び、椀の外側を削って整形するカタブチ作業、中を削るナカグリ作業と続ける。男たちが手引きロクロで椀に仕上げていく。できあがった椀は馬の背で町へ運ばれる。手引きロクロは奈良時代に大陸から導入されたものだ。藤八さんたちは移動性生活をやめ、手引きロクロもなくなって50年余りたっていた。しかし藤八さんたちの身体には、千年を越す技術の伝統が見事に息づいていたのであった。



沖縄初上映 後援：公益財団法人 ポーラ伝統文化振興財団

木の生命よみがえる -川北良造の木工芸-

企画製作 ポーラ伝統文化振興財団 / 制作協力 桜映画社
監督 村山正実 / 1997年 / 34分

文部省特別選定 / 優秀映画鑑賞会推薦 / 文化庁優秀映画作品賞 /
日本紹介映画・ビデオコンクール銀賞・外務大臣賞

木工芸作家・川北良造は1934年(昭和9年)に石川県山中町に生まれ、父・川北浩一に師事して材料になる木を轆轤(ろくろ)で回転させながら椀・鉢・盆などの丸い器物を削り出す木工挽物技法を習得、さらに水見晃堂に師事して研究を重ね、伝統的な挽物技法を高度に体得した。櫛を中

心に、桑、楓、黒柿、栃などの素材の特色を生かし、伝統的な筋挽きや各種象嵌技法に独自の工夫を加え、その堅実な技術を駆使して、現代感覚溢れる清新な作品を発表している。昭和41年、42年、日本伝統工芸展で日本工芸会会長賞受賞。1994年(平成6年)重要無形文化財「木工芸

保持者(人間国宝)に認定された。この映画は、平成8年の秋から平成9年の夏までの川北良造の8ヵ月に亘る「櫛造りの盛器」の制作過程(木取り・荒挽き・中挽き・仕上げ挽き・象嵌・拭き漆の仕上げ作業及び道具の制作など)を記録したものである。

上映作品、上映日は都合により変更することがあります。詳細は、海燕社のウェブサイト(<http://www.kaiensha.jp>)やSNSにてご確認ください。

古書店 うみつばめ

URL:<http://kaiensha.stores.jp> ☒ @KoshoUmitubame

海燕社のウェブ古書店うみつばめ。年中無休で開店しています。こだわりは、画家 石垣克子デザイン、オリジナルブックカバー(単行本・新書・文庫本)とオリジナルしおり(3種類)です。いずれかをご購入の本におつけします。本とご縁がありますように。



ウェブ古書店